

長野県革新懇ニュース

2017年6月号
発行日6月10日
年会費 正会員 5000円
購読 3000円
送料込
準会員 2000円

216

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 和田浩さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 共謀罪に抗議と怒りのうねり
- 4面 随筆「ざわんざわんざわん」堀井正子さん
映画評論「標的の島 風かたか」
読者のこえ・各地の動き、クロスワードパズル

URL：nagano-kakushinkon.com



1956年飯田市生まれ。新潟大学医学部卒。長野県民医連研修委員長、日本外来小児科学会「子どもの貧困問題検討会」代表世話人、「貧困と子どもの健康シンポジウム」実行委員長。

500円がなく病院に

かかれない子もいます

和田 浩さん

(健和会病院小児科医師)

子ども医療費の
完全窓口無料が必要

Q 子どもの医療費窓口無料化の動きが進んでいます。どのような状況でしょうか？

今まで子どもの医療費への助成は、長野県では「償還払い(いったん支払って後から返ってくる)」でした。長野県の人はそれが普通だと思っていました。他の多くの県では「現物給付(完全無料、または500円などの定額負担)」を導入しています。今までは現物給付にすると、国が自治体に対してペナルティをかけていたのですが、昨年末「未就学児に関してはペナルティを廃止する」と、国が大きな方針転換をしました。それを受けて県も「中学卒業まで現物給付」の方針を打ち出しました。小中学生に関し

てはペナルティを払って現物給付にするので、県としても大きな方針転換で、すばらしいと思います。ただ、他の県では今までもペナルティを払って現物給付を実施してきたわけなので、遅い対応なんですけどね。それから所得制限を設けなかった点、これもすばらしいことで、きちんと評価すべきだと思います。しかし、県は今まで1件500円取っていた受益者負担金は続けるという方針です。私はこれでは不十分で、完全窓口無料にするべきだと思います。1件500円ということは、病院にかかると500円、院外薬局で薬を買えば500円、計1000円かかります。「1件500円くらい払えないことはないだろう」と思う人は多いのではないかと思います。でもそれが払えなくて病院にかかれないという子が実際にいるんです。

それは、長野県の生活保護捕捉率(生活保護の対象となる世帯のうちで実際に受給している率)が6.6%と全国46位の低さだということからも言えます(全国平均15.5%)。これは山形大学の戸室健作先生が昨年発表したデータです。それによると長野県の子どもの貧困率は11.1%(全国13.8%)です。「子どもの相対的貧困率16.3%」という数字との違いは、「何を貧困とするか」の違いです。戸室先生は生活保護のレベルを基準にしています。つまり、長野県の子どもの1割強は生活保護レベル以下の収入でありながら生活保護を受けない家庭にということになります。

レッテル貼りではなく
援助のあり方を考える

Q 医療現場からみた子どもの貧困の実態はどうでしょうか？

やはりとても深刻になっていると感じます。「今日食べのお米がない」「中学入学金けど制服を買うお金がない」といった話はそう珍しくはありません。

ただ、そういう家庭の親は一見「問題のある親」というふうに見えてしまうことが多いです。時間外ばかり受診する、子どもが喘息なのに親がタバコを吸う、化粧が派手、あいさつができない……といったような。それは貧困の連鎖の中で、親自身十分な養育を受けられずに育ちそびれた面を抱えている場合もあるし、ダブルワーク・トリプルワークなど無理して働いていて、時間的にも精神的にも余裕がなくなってしまう、いろいろ

応援していることを
伝え続けることが大切

Q 子どもの貧困解決のために何が必要でしょうか？

「貧困対策」には大きく2通りあると思うんです。ひとつは実際に今貧困の中にいる親子への支援。子ども食堂・学習支援・食料支援などもそうです(ただし子ども食堂などは貧困層だけに限定しない、だれでも来れる地域の「居場所」として発展していくという方向性が出てきているように思います)。

しかし、それだけで貧困が解決するわけではありません。「貧困そのものをなくす」ことを考えていく必要があります。それは、雇用・税制・社会保障・教育など根本的な政治のあり方を変えることです。先ほど紹介した戸室先生のデータでは各県ごとの子ども

もの貧困率とワーキングプア率もきれいに相関するというデータも出ています。「子どもの貧困問題は子育て世代の雇用問題」という側面も大きいということだとも思います。安倍政権は「貧困の連鎖を断つ」とは言いますが「貧困をなくす」とは言いません。でも本当はそれこそが国のやるべきことですよ。私たちが専門職や、いろいろな形で親子にかかわる人たちにできることとして「自己肯定感を育てる」ことが非常に重要だと思えます。自己肯定感は、逆境に屈せず貧困から抜け出す原動力になります。しかし、彼らは「自分はダメな親・子で、助けてもらう価値などない」と感じている。実際彼らは「突っ込みどころの多い人たち」であることが多いのです。しかしどんな親でもどんな子でも、がんばっている所が必ずあるんです。でも、そんなのはがんばったうちに入らないと自分で思っている。私たちが彼らの話をよく聞き、がんばっている点を見つけ、具体的に「ここでこんなふうがんばったじゃないですか」と伝えることで、少しずつ自己肯定感を育てることができるとは思いません。また、彼らは頼れる親族や友達がいなくて孤立している場合が多いので、私たちが「応援してるよ」「何かあったら言ってね」と伝え続けることそのものが、大きな支えになるのだと思います。実は、私が一番重要だと思っているのがこの点です。

【2面に続く】